

自明治八年
至明治九年

司法省第一回報告

法



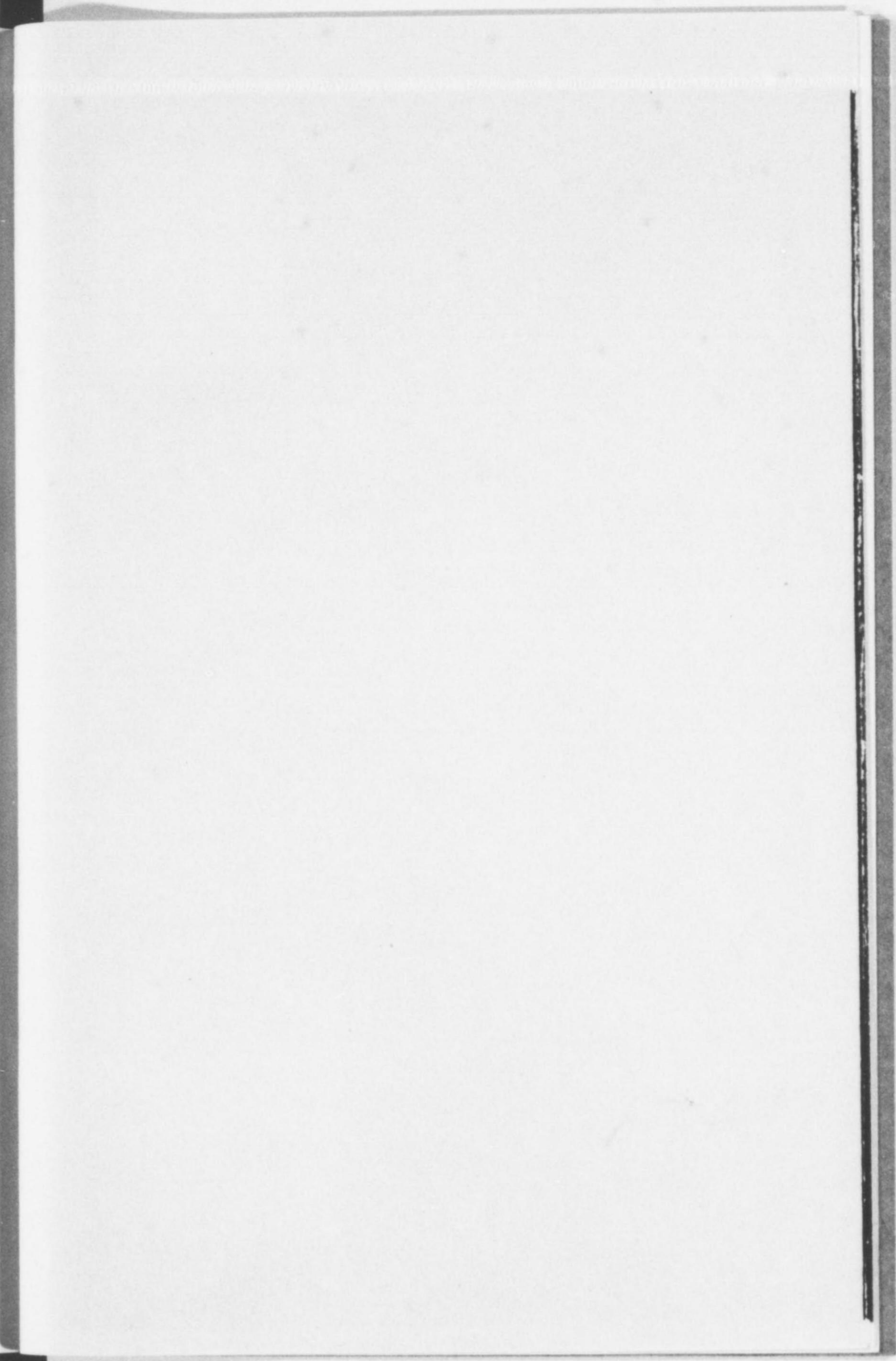
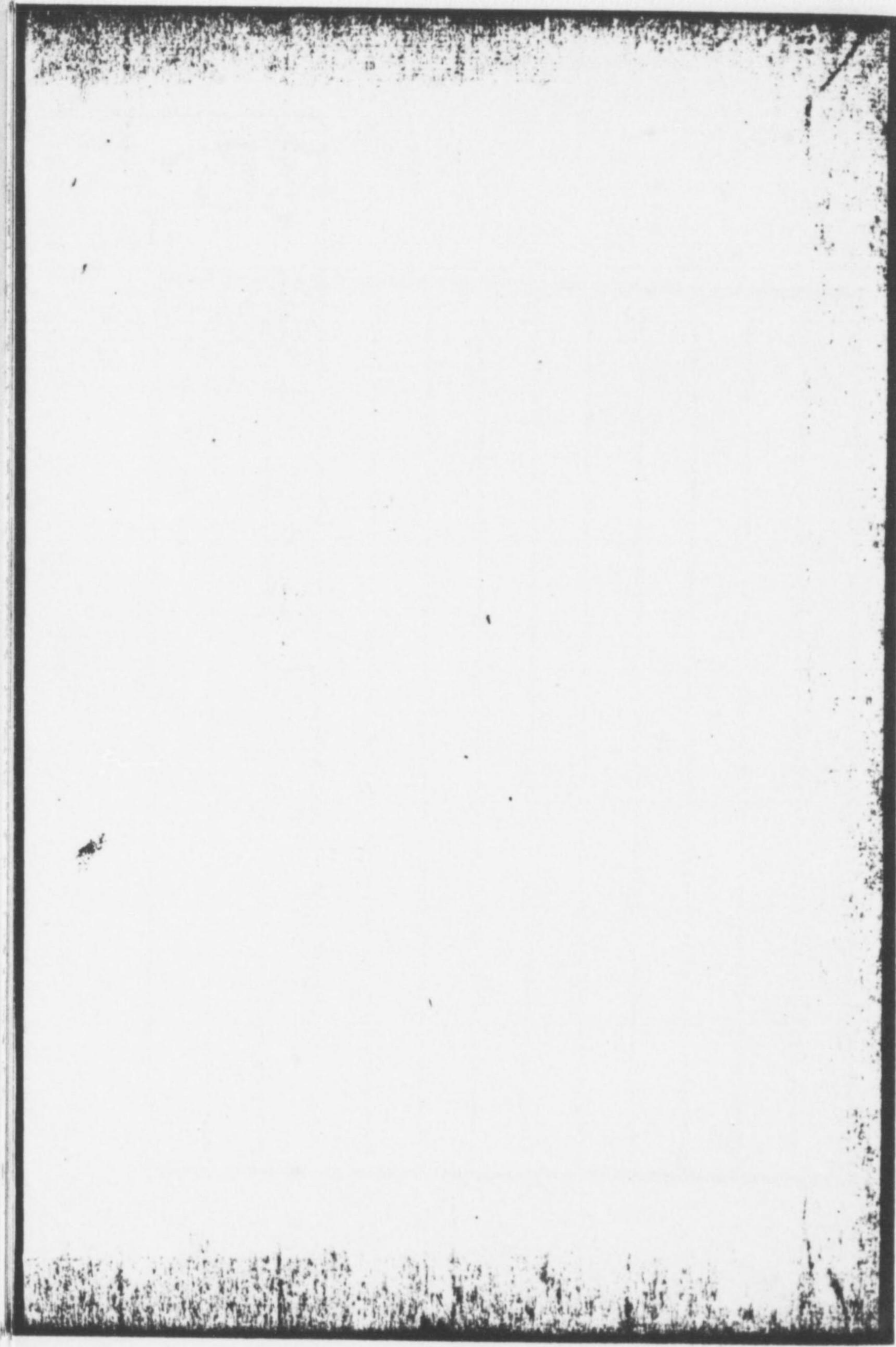
1-1-1
0557

自明治
三十二年
司法省
第一回
報告

司法省
第一回
報告

H500
S 1
7-1

法務図書館



大政官
記
録

司法省報告書

回報告
明治八年七月ヨリ
至ル

大政官公文

明治八年度報告書

司法省

世運ノ興隆スル事務隨テ繁起シ法律隨テ詳密
ナリ一年間施行スル所ヲ以テスラ猶簡策錯雜
檢討シ難キ苦ム况ヤ數年ノ久キ百事ノ多キ
其沿革發置安ソ瞭知スルヲ得シ本省客歲報告
書編纂ノ命ヲ奉シ始メテ明治八年度ヨリ着手
シ且其第一回ナルヲ以テ維新以還ノ事蹟ヲ供
收シ其要旨ヲ提揭シ繁ク省キ冗ク刪リ務メラ
簡明ニ附ク是ニ於テ數年間事實ノ綱領始メテ
瞭然タルヲ得タリ顧ルニ此書草創ニ厲スルヲ
以テ體裁ホク立タヌ調査ホク至ラサル者アリ

則テ每歲編彙スル所將ニ逐次改良以テ全備ニ
至ラントス書既成ル謹テ進呈ス

司法卿大木喬任

司法省明治八年度報告書

本省事務要領

事務ノ要領中他日ノ目途ニ至テハ未ク
遷ニ推定シ易カラサル者アリ殊ニ前年
度トノ比較ノ如キハ此書本年ノ創體ニ
係ルヲ以テ皆此ニ及ハス已下諸表做之
一陸羽中上等裁判所ニ所設置上申ニ因リ先ツ
一所ヲ福島ニ置ルト雖モ該地方ハ僻陬ニ
シテ詞訟繁カラス更ニ一所ヲ増置スルハ尚
ホ數年ヲ期スヘケレハ現今福島ニ在テハ南

ヲ經サルカ故ニ混亂ノ事件尠カラス裁判上
不都合ナルヲ以テ明治八年十月十五日上申
ニヨリ同年十二月十二日雙方ノ戸籍ニ登記
セサル内ハ其効ナキ者ト定メラレタルノ旨
ヲ奉ス第百九號御布告

一恩赦ノ特典ヲ奉行スルハ本省ノ事務ナルヲ
以テ明治八年九月廿四日懲役終身以下本省
ノ見込ヲ以テ酌量輕減セシメテ上申シ同年
十月七日當分許可セラルルノ旨ヲ奉シ同月
二十五日更ニ罪囚中功勞等奇特ヲ極ムル者

ラ特別軽減セシテ再申シ同年十二月十七日當分許可セラル、ノ旨ヲ奉ス

一 曩ニ司法警察事務當分地方官ハ御委任ノ公布ニヨリ明治八年十二月十九日地方警察官ハ直ニ檢事ノ務ヲ行フ者ト心得ヘキ旨ヲ裁判所ヲ置カサル各縣ハ達ス當省達第廿四号

一 近來詞訟日ヲ逐テ増加シ裁判上淹滯失錯ノ恐レアルノミナラス其詞訟瑣末事件常ニ多キニ居リ往々得失相償ハス公私兩ツカラ不便ヲ極ルヲ以テ明治八年七月十八日裁令ヲ

經ルニヨリ同年十二月二十八日支廳假規則ヲ設ケ勸解裁判施行及ニ支廳裁判權限ヲ定メ各裁判所ハ達シ爾來公私各其便ニ安スルヲ以テ明治九年一月十二日裁令ヲ經ルニヨリ同月二十五日更ニ裁判所ヲ置ナル府縣ハ達ス明治八年當省達第廿五号

一 人民ヨリ院省使府縣ニ對スル訴訟ニ於テ猶行政裁判司法裁判ノ權限區別判然ナリ難キモノアリ不都合ナルヲ以テ明治八年十月二十九日上申同九年一月十九日裁令ヲ經ルニ

ヨリ同月二十二日右関係ノ訴訟ハ當分本省
ノ指揮ヲ請ヒ受理ス可キ旨ヲ各上等裁判所
ハ達ス當省達第
五号

一 上告期限内各檢事上告セスト雖モ司法卿裁
判ヲ不當トスル者アルヲ以テ明治八年十月
廿三日上奏ニヨリ同九年一月三十一日談時
ハ期限ニ拘ハラヌ大審院檢事ヲシテ上告セ
シハルヲ得ヘシト定ラレタルノ旨ヲ奉ス
御第八号
布告

一 本省構内及ヒ各裁判所ノ監倉ハ英佛兩國ノ

例ニ倣ヒ内務省ニ於テ總括セハ體裁事務兩
ツナカラ宜キヲ得ルヲ以テ明治八年九月二
十三日上奏同年十一月二日裁令ヲ經ルコト
リ内務省協議ノ上同年十二月二十四日再申
同九年二月三日再令ノ旨ヲ奉シ同省ニ交付
ス

一 從前代言人ヲ置クハ大凡訥辨又ハ愚昧ニシ
テ推理アリト雖モ之ヲ伸暢スルヲ得サル
モノ、為ノニ設ルモノナリト雖モ其弊遂ニ
人ノ推理ヲ買取シ其他種々ノ奸策ヲ以テ詞

訟ヲ滋スヲ以テ明治八年十二月十日上申同
九年一月二十八日裁令ヲ經ルニヨリ同年二
月二十二日代言人規則第五箇條ヲ布達ス省當
一甲
号第

一懲役終身ノ囚年ヲ逐ラ増殖シ服役中諸般ノ
罪科ヲ犯ス者徒ヲ多キヲ以テ明治八年十一
月四日上奏ニヨリ同九年二月二十八日懲役
人又犯罪條例懲役人逃條例ヲ増補シ律令第
三百二條ヲ删除セラレクニ旨ヲ奉ス第ニ
布号
告御

一曩ニ宮城上等裁判所ヲ置レ而シテ未ク同所
ニ縣裁判所ノ設ケテ事務實際差支少カラ
サルヲ以テ明治九年二月十四日上奏ニヨリ
同年三月二日宮城裁判所置レタル旨ヲ奉
ス第ニ
号御
布告
十六

一法律學者ヲ養成シ後來裁判事務ヲシテ完全
ナラシムル目的ヲ以テ當省決議ニヨリ明治
九年三月五日佛國法律學專門科ヲ開キ生徒
ヲ四方ニ招募ス當省一連
号第
一鶴ヶ岡縣民刑事從來頗ル紛難ノ聞ハアルヲ

以テ明治九年二月二十日上奏ニヨリ同年三月九日同縣ニ裁判所置レタルノ旨ヲ奉スニ第
十、八号
御布告

一 従前未ク治罪法ノ設ケナキヨリ警察ノ方法一定セス不都合尠カラサルニヨリ明治九年二月十二日上奏同年四月二十日裁令ヲ經ルニヨリ同二十四日勅問判事假規則十八箇條及ニ司法警察假規則二十二箇條ヲ各裁判所并各府縣ニ布達ス當省連第百四十七号

一 第五十三号公布ヲ以テ足柄縣始メ廢合管轄

皆等アリ隨テ裁判事務上ノ都合ニヨリ明治九年四月二十五日上奏同年五月三日足柄佐賀兩裁判所ヲ廢シ愛知三潯兩裁判所置ルノ旨ヲ奉ス第百六十二号
御布告

一 明治九年五月三日夜東京上等裁判所焼亡セ
ルヲ以テ同四日五日兩日閉廳ノ旨ヲ布達ス當省
第八号

一 我國未ク全備ノ法律ナキヲ以テ當省章程ニ依リ明治八年八月十三日ヨリ治罪法草案ヲ取調ニ同年九月二十日ヨリ刑法改正草案ヲ

取調一同九年六月一日ヨリ民法草案取調ニ着手ス

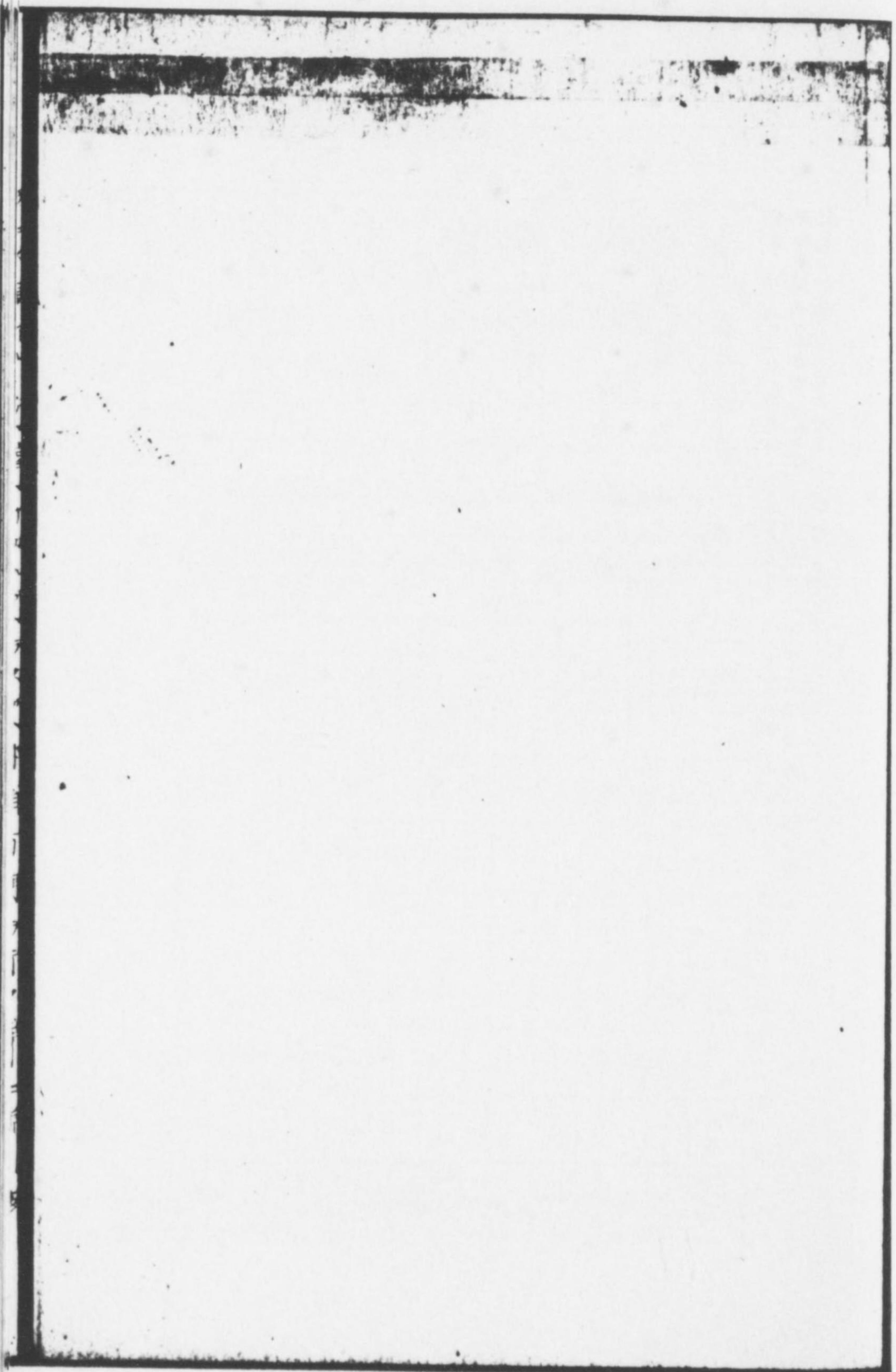
一 贓証明白ナルニ承招ニ服セサルモノ拷訊ヲ用ユルノ法ハ未ク必ラス悉ク甘結ヲ得ヘカラスシテ嘗ニ多少見ルニ忍ビサルノ慘毒ヲ致スシ以テ明治九年四月二十六日上奏ニヨリ同年六月十日断罪依證法制定ノ旨ヲ奉ス

号第
脚八
布十
告六

職員

人員ノ増減ハ事務ノ多少ニ據レハ年々定知ス

ハカラスト雖モ八年ノ現負ヲ示サン為ノ第一
號表ヲ作ル



三 拾 五 十 一 日 記 一 頁

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

拾 五 十 一 日 記 一 頁

海外派遣生徒

明治八年八月法學生徒中亦下廣次外六名ヲ撰
 三仙國、派遣シ留學セシム同年九月獨逸國大
 學校私費留學生山脇玄ヲシテ更ニ官費生トナ
 シ向三年間同國ニ留學セシム學科費等五、如
 シ尚本省法學ノ規則ヲ改正シ生員ヲ増集シ逐
 次派遣スルニテハシ

仙國在留	七人
獨乙國在留	壹人
學科	法律
學費	一箇年 七千六百五十圓

賞典

一年以上皆勤ニヨリ金員ヲ賞典セシモノ八十名
 自十圓至四圓惣額金員四百七十四圓
 東京裁判所及撫府寺建築ノ事務ニ於テ勉勵セ
 シヲ以テ金圓ヲ賞典セシ者十名名自五圓至一圓
 二十五錢惣額金圓二十六圓五十錢
 合計人負九十四名金員五百圓五十錢

建築

訴訟多ケレハ訟庭ノ狹隘ナルヲ覺テ改ニ或ハ増
 置ニ或ハ新建ス第四卯表ヲ作ル

新築表

自明治八年七月
至同九年六月

廳名	地名	造築種類	總坪	起工	落成	經費
大審院	東京八重洲町 二丁目二番地	西洋造	壹千壹百壹拾	明治九年六月十日	明治十年一月十日	全三萬八千八百九十圓七錢六厘
森裁判所	大坂上本町 四丁目一番地	西洋造	壹千零五拾	明治九年一月十日	明治九年十月十日	全三萬九千九百八十圓七錢六厘
森裁判所	長崎高島町 七百二十番地	西洋造	壹千零五拾	明治九年十月十日	明治九年十月十日	全三萬二千七百一十圓七錢六厘
長崎裁判所	長崎高島町 七百二十番地	西洋造	壹千零五拾	明治九年十月十日	明治九年十月十日	全三萬二千七百一十圓七錢六厘
長崎裁判所	長崎高島町 七百二十番地	西洋造	壹千零五拾	明治九年十月十日	明治九年十月十日	全三萬二千七百一十圓七錢六厘
櫻木裁判所	野州初木町 一丁目	西洋造	壹千零五拾	明治九年十月十日	明治九年十月十日	全三萬二千七百一十圓七錢六厘
合計	廳敷五箇所					經費全七萬五千九百五圓七錢六厘

息救

同獄未決囚ノ縊死ヲ救護蘇生セシメシニ目リ
死罪ヲ救減スル者一人

放火ノ情状ヲ酌量シテ死罪ヲ救減スル者一人
主家ノ奸目謀殺ノ杖ニシテ加功スルモ其舉事
ヲ主家ヲ憂ルノ切ナルニ出テ毫モ私怨ヲ挟マ
サルニ依リ死罪ヲ救省スル者二人
同上杖ニシテ加功セサルノ懲役罪ヲ減等スル
者一人
過テ悔ヒ善ニ過ル事ニヨリ懲役罪ヲ減等ス
ル者二人
人命ヲ救護スルニヨリ懲役罪ヲ減等スル者七
人

工役ニ因リ重傷ヲ受ケ廢疾ニ至ルニヨリ懲役
罪ヲ減等スルモノ一人
背類ヲ名トシ暴ヲ煽動シ流罪ニ濫セシ者改定
律例ノ推衡ヲ斟酌シテ減等スル者九十六人
夫火ノ防ト功勞アルニ依リ懲役罪減等スル者
三十八人
過チヲ悔ヒ自首ノ上月形探偵ノ功勞ニヨリ懲
役罪ヲ全免スル者九人
國事犯ノ情状ヲ酌量シテ懲役罪ヲ減等スル者
拾五人

總計百七拾三人
章程ニ依リ恩赦ノ特典ヲ奉行スル如此乃各地
ノ區分ヲ示ス第五節表ノ如シ

第五節

罪因恩赦表
五月九日明治八年七月一日
五月二十一日

概要

地方官	官	吏	兵	警備隊	義勇隊	合計
名新嘉大島長新水	名新嘉大島長新水	名新嘉大島長新水	名新嘉大島長新水	名新嘉大島長新水	名新嘉大島長新水	名新嘉大島長新水
九	九	九	九	九	九	九
十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五
十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八

全國死罪表

泉

斬

絞

合計

東京上等裁判所轄々										大坂上等																
東京裁判所	神奈川裁判所	小笠原裁判所	足柄下裁判所	足柄上裁判所	新治裁判所	松本裁判所	長野裁判所	山梨裁判所	静岡裁判所	濱松裁判所	愛知裁判所	岐阜裁判所	長野裁判所	新潟裁判所	新潟裁判所	新川裁判所	大坂裁判所	京都裁判所	滋賀裁判所	石川裁判所	三重裁判所	度會裁判所	奈良裁判所	和歌山裁判所	兵庫裁判所	
1	2					1					1			1					1							2
6	13	16	22	25	33	38	42	44	46	48	62	64	66	72	74	76	24	24	26	26	44	44	46	46	66	11
						4					1			1					2				3			
7	13	16	22	25	33	38	42	44	46	48	62	64	66	72	74	76	24	24	26	26	44	44	46	46	66	12

關拓使	上等裁判所										官署上等裁判所										等裁判所										合計
	青森	岩手	秋田	山形	宮城	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	山形	宮城	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	山形	宮城	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	山形	宮城	福島	茨城	栃木	群馬	
明治八年
明治九年
明治十年
明治十一年
明治十二年
明治十三年
明治十四年
明治十五年
明治十六年
明治十七年
明治十八年
明治十九年
明治二十年
明治二十一年
明治二十二年
明治二十三年
明治二十四年
明治二十五年
明治二十六年
明治二十七年
明治二十八年
明治二十九年
明治三十年

本表甲無窮ノ罪名ヲ該載スル様ハナルヲ以テ之ヲ十一項ニ大別ス而シテ第三第四ノ兩項ハ賤盜中ヨリ特ニ強盜ノ二目ヲ提出シテ本項ニ列スルモノトス

勸解裁判

勸解裁判ハ明治八年十二月始メテ開クヲ以テ其數多カラズ東京裁判所及小倉縣管内アル第十册表ノ如シ但人民其便ヲ知ルニ至テハ逐年増加スヘシ

第十册

勸解裁判件數表 明治八年十二月中	
東京裁判所	一萬。六百五十六件
小倉縣	二件
合計	一萬。六百五十八件

民刑事特異件目

民刑事ノ特異ナルモノ各裁判所固ヨリコレ無キニ非ルハシ然レモ何事件以上ヲ特異トスルヤ遽ニ其分界ヲ辨知シ難キヲ以テ姑ク東京上等裁判所及東京裁判所審判スル所ノ中ニ就テ特異ト認定スルモノヲ抽出シ其一端ヲ表ス

東京上等裁判所

一 明治八年十月二日獨乙國ホフマシヨリ讓受タル同國人「レヤフエ」ヨリ元兵部省代理軍醫松本順ニ對スル違約償金請求ノ訴訟ヲ審

判シ被告曲ニ決シ請求金額五千五百圓ニ利子ヲ加ヘ原告ハ償還セシム

一 同年十月三十日米利堅人「ハフロ」スシクシヨリ石油會社頭取石坂周造ニ對スル該社雇中給料等諸費金請求ノ訴訟ヲ審判シ被告曲ニ決シ請求額洋銀貳万六千四百六拾三弗ニ利子ヲ加ヘ原告ハ償還セシム但被告シテ裁判執行マテス

一 同年十一月十二日新潟縣越後國頸城郡川原村總代松田治郎左衛門外三人ヨリ同郡中村

總代銀林松平外三人同郡中谷村總代松田善
左衛門外二人ニ對スル地界犬牙所有不明ノ
訴訟ヲ審判シ當裁判所官員二名地理寮官員
三名出張實地檢査ノ上原告曲ニ決ス

東京裁判所

一明治八年三月十八日東京府士族市江長盈三
男幸三郎十一歳田村喜助外六名ヲ同意セシ
ノ持兇器強盜十五次贓金四百八圓餘ノ獄ヲ
斷シ斬ニ處ス

一同日東京府高綿貫伊助妻ノ父兄弟ノ公債證

書地券等ヲ擅ラ賣却抵當トスル贓金壹萬八
千六百圓餘ノ獄ヲ斷シ懲役十年ニ處ス

一同年五月三日同府平民塩田兼吉雇主ノ妻ト
姦通シ終ニ雇主ヲ毒殺スル獄ヲ斷シ斬ニ處
ス

一同年六月七日巡查錦織熊吉三女ニ通ヤシヨ
リ互ニ妬怨ノ餘三女ヨリ同死ヲ迫ラレ已ム
ヲ得ヌ三女ヲ斬殺シ次ヲ自殺セントレテ果
サ、ルノ獄ヲ斷シ懲役十年ニ處ス

一同年八月三十日東京府平民終身懲役囚佐藤

米吉服役ヲ厭々宿怨アル同囚ヲ殺シ自ラ死
地ニ就カント欲シ詎囚ヲ絞殺セントシテ一
時昏絶ニ至ラシムル獄ヲ斷シ絞ニ處ス

一 同年十二月廿五日神奈川縣平民久我善太郎
兄石山國太郎外國人ヨリ品代延滞ノ出訴及
ハレ審判ノ末辨償スルキ金額ニ差迫ル際曾
テ自宅ニ差置ク舊娼妓若柳ノ情願ヲ以テ再
ニ娼妓トナリ金策シクルヲ讀賣新聞ニ掲
載公布セラレシヲ怨意ノ外國人ニ面折ヲ受
ケ慚愧ノ餘死ヲ決シ其趣若柳ノ報道スルヨ

リ同人共死ヲ欲シモルニテツギフニ任セ之
ヲ與ハ遂ニ死ニ至ラシムル獄ヲ斷シ情ヲ量
リ懲役三年ニ處ス

經費

一 周年經費定額アリ額外アリ今其用フル處ヲ
區別シ以テ明示ス第十一號十二號表ノ如シ

第十部 司法省經費表 自明治廿九年六月

總計	定額						
	合計	給與	廳中費	庶費	營繕費	外國人諸費	内國生徒費
		倉庫費	外圍生徒費	合計	合計	合計	合計
一〇、五二、三六、七〇、一	七、七三、九六、一、九八一	八、〇、六八、九、七、七	八、六、一、三、四、二	四、八、〇、七、八、一、二、七、九	一、二、七、〇、九、〇、〇、〇	五、〇、五、六、七、〇、〇、一	一、〇、九、八、三、三、三、三
一、八〇、八、八、八、七、五	八、〇、五、一、三、二、六	八、〇、九、〇、〇、〇、〇、六、六、五	九、三、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇
一、八〇、八、八、八、七、五	八、〇、五、一、三、二、六	八、〇、九、〇、〇、〇、〇、六、六、五	九、三、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇

該表ハ各裁判所ヲ合算スルモノトス

司法省經費表

定額		實額	
名	額	名	額
廳中費	七、七三、九六、一、九八一	廳中費	七、七三、九六、一、九八一
庶費	八、六、一、三、四、二	庶費	八、六、一、三、四、二
營繕費	四、八、〇、七、八、一、二、七、九	營繕費	四、八、〇、七、八、一、二、七、九
外國人諸費	一、二、七、〇、九、〇、〇、〇	外國人諸費	一、二、七、〇、九、〇、〇、〇
内國生徒費	五、〇、五、六、七、〇、〇、一	内國生徒費	五、〇、五、六、七、〇、〇、一
外圍生徒費	一、〇、九、八、三、三、三、三	外圍生徒費	一、〇、九、八、三、三、三、三
倉庫費	四、五、〇、五、〇、〇、〇	倉庫費	四、五、〇、五、〇、〇、〇
合計	一〇、五、二、三、六、七、〇、一	合計	一〇、五、二、三、六、七、〇、一

該表ハ各裁判所ノ區別ニ依リテ第十部表ニ掲グル經費ノ明細ヲ示ス

二十九年六月廿二日

第十二部 自明治廿九年七月

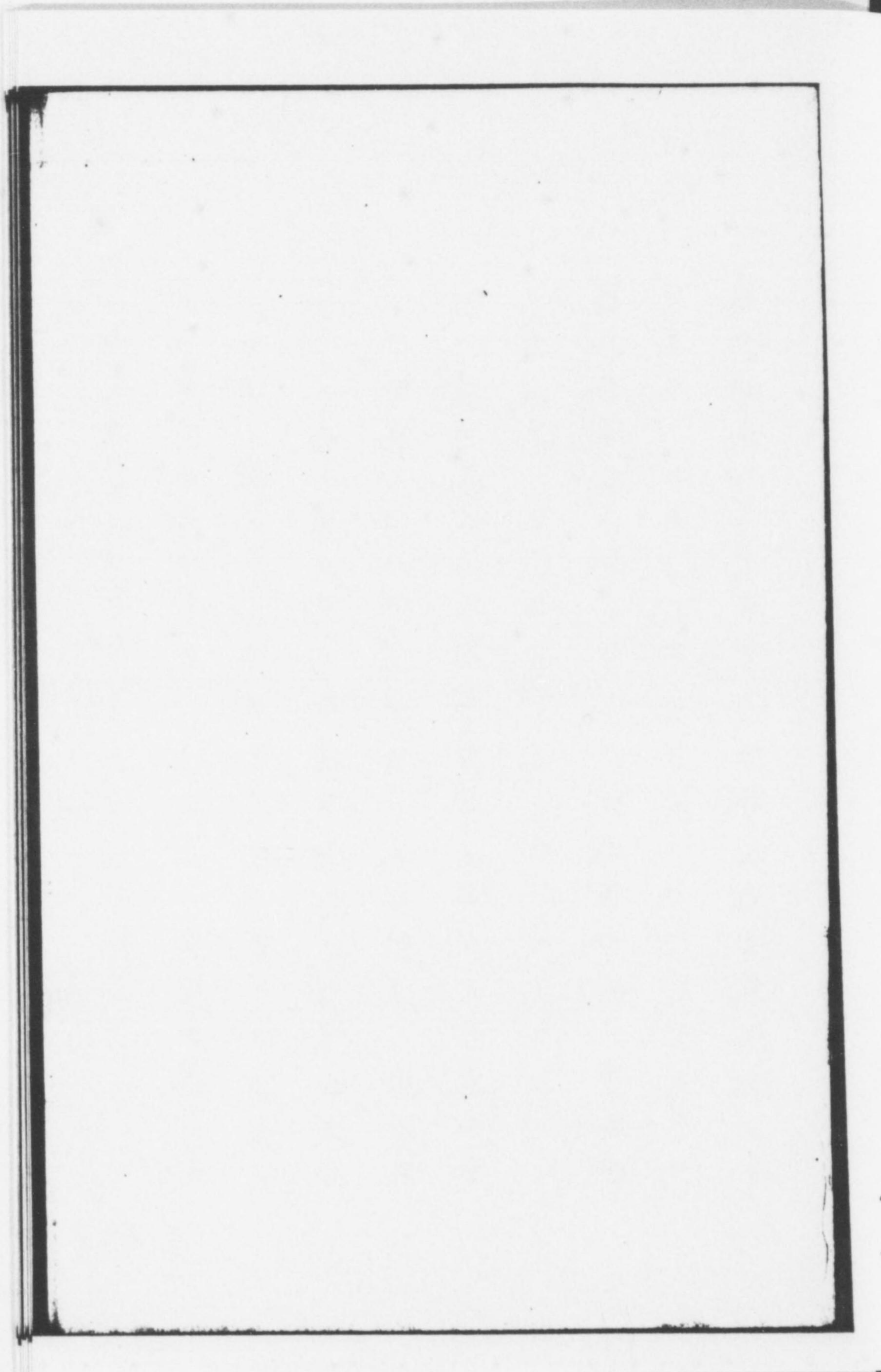


Table with 4 columns: Date, Description, Amount, Balance

日期	摘要	金額	餘額
1/1			
1/2			
1/3			
1/4			
1/5			
1/6			
1/7			
1/8			
1/9			
1/10			
1/11			
1/12			
1/13			
1/14			
1/15			
1/16			
1/17			
1/18			
1/19			
1/20			
1/21			
1/22			
1/23			
1/24			
1/25			
1/26			
1/27			
1/28			
1/29			
1/30			
1/31			

Table with 4 columns: Date, Description, Amount, Balance

維新以降至明治八年六月治平概畧

維新以降至明治八年六月ノ官廳廢置等大
要ヲ摘出スト雖或ハ月アツテ日ナキ者
リ且其間支出ノ經費ノ如キハ簿冊紛更令
ヨリ之ヲ知ルニ由ナシ故ニ姑ク司法省設
置以後各年ノ撥算ヲ舉ク而シテ辛未壬申
兩年ハ最精確違算ナキ能ハサルモノトス

一 明治元年戊辰正月十七日太政官中刑法事務司
ヲ置カル

一 同年二月五日同官中刑法事務司ヲ置カル

一 明治元年閏四月二十二日刑法事務司ヲ廢セラ
レ同二十三日刑法官ヲ置ケレ執法守符監察糾
弾捕以斷獄ノ事ヲ掌リ且監察鞠獄捕以ノ三司
ヲ管ス

一 同年同月御即位大禮改元ニヨリ逆罪故殺
ヲ除キ都テ罪一等ヲ減セラレ本官之ヲ施行ス
一 同年十月廿九日國事多端刑律釐正ニ暇アヲサ
ルヲ以テ姑ク幕政ノ定ムル處ニ依リ火罪等ヲ
除刑ヲ廢シ磔刑ハ君父ヲ弑スル大逆ニ止メラ
ル、ノ旨ヲ奉ス

- 一 明治元年戊辰十月^日不官ヲ奉^ル京ニ置カル
- 一 同二年己巳二月廿四日東京刑法官ヲ本官トシ
京都ニ在ル者ヲ留守トス
- 一 同年四月^日不各官重大ノ事^ハ行必ス天裁ヲ乞フ
ハキノ旨ヲ奉ス
- 一 同年五月廿日彈正臺ヲ宮中ニ置カル
- 一 同年同月廿四日監察司廢セラレ京都監察司當
外置カル
- 一 同年七月八日刑法官ヲ廢シ刑部省ヲ置カレ獄
ヲ鞠シ刑名ヲ定メ疑獄ヲ決スルヲ掌ル
- 一 同平同月廿七日刑部省京都留守ヲ廢セラレ
- 一 同年八月十六日彈正臺京都出張所ヲ置アル
- 一 同年同月十七日京都監察司廢セラレ
- 一 同平十月七日新律修撰ノ初ヲ奉ス
- 一 同年十一月五日速部司ヲ置カル
- 一 同年十二月二日囚獄司ヲ置カル
- 一 明治三年庚午六月九日彈正臺大坂出張所ヲ置
カル
- 一 同年七月廿五日彈正臺京都出張所ヲ廢セラレ
更ニ巡察出張所ヲ置カル

- 一 同年十二月御不新律烟領六卷成リ之ヲ奏進ス
同月廿日之ヲ頒布セラル
- 一 同四年辛未二月十日萍正陸京都巡察出張所ヲ
改メテ大坂出張所ノ各廳トナス
- 一 同年七月九日刑部省萍正陸ヲ廢シ司法省ヲ置
カレ執法申律折獄斷訟ヲ總判スルヲ掌ル
- 一 同年同月同日囚獄司ヲ管ス
- 一 同年同月十八日東京府聽訟斷獄ノ事務ヲ管ス
- 一 同年九月十四日大藏省聽訟事務ヲ管ス
- 一 同年同月廿七日明法寮ヲ置カ一寺ル

- 一 同年十二月廿六日省中別局ヲ設ケテ東京裁判
所ト稱ス
- 一 明治五年壬申二月三日東京間中場裁判所ヲ置
キ詞訟ノ外國人ニ關スル者ヲ聽ク
- 一 同年三月七日駐贖金ヲ收入ス
- 一 同年五月廿五日裁判所ヲ置カル
- 一 同年八月三日職制章程ヲ假定シ裁判所ヲ臨時
司法出張府縣區ノ五等ニ區分シ且檢官訟官屬
官等ノ官ヲ設ク
- 一 同年同月同日法學生徒ヲ置ク

- 一 同年同月五日 裁判所ヲ神奈川入間埼玉ノ三縣ニ置カレ
- 一 同年同月十二日 裁判所ヲ足柄木更津新治朽木茨城印旛厚馬守都宮ノ八縣ニ置カレ
- 一 同年同月廿七日 警保寮ヲ置カレニ警保
- 一 同年同月詳不 違式註違條例ヲ設ク
- 一 同年九月十三日 裁判所ヲ兵庫縣ニ置カレ
- 一 同年同月同日 裁判所ヲ山梨縣ニ置カレ
- 一 同年十月七日 裁判所ヲ京都府ニ置カレ
- 一 同年同月八日 東京府下ニ番人ヲ置ク

- 一 同年同月廿日 警保寮中巡查ヲ置ク
- 一 同年同月同日 裁判所ヲ大坂府ニ置カレ
- 一 同六年六月廿三日 守都宮裁判所ヲ朽木裁判所ニ併セ印旛木更津西裁判所ヲ千葉縣ニ移シ千葉裁判所ト稱シ入間群馬西裁判所ヲ熊谷縣ニ移シ熊谷裁判所ト稱セラル
- 一 同年九月廿二日 京都府知事裁判ニ陪審ヲ置ク
- 一 同年十月九日 陪審ヲ改メテ参事ト稱ス
- 一 同年同月廿九日 参事解カレ

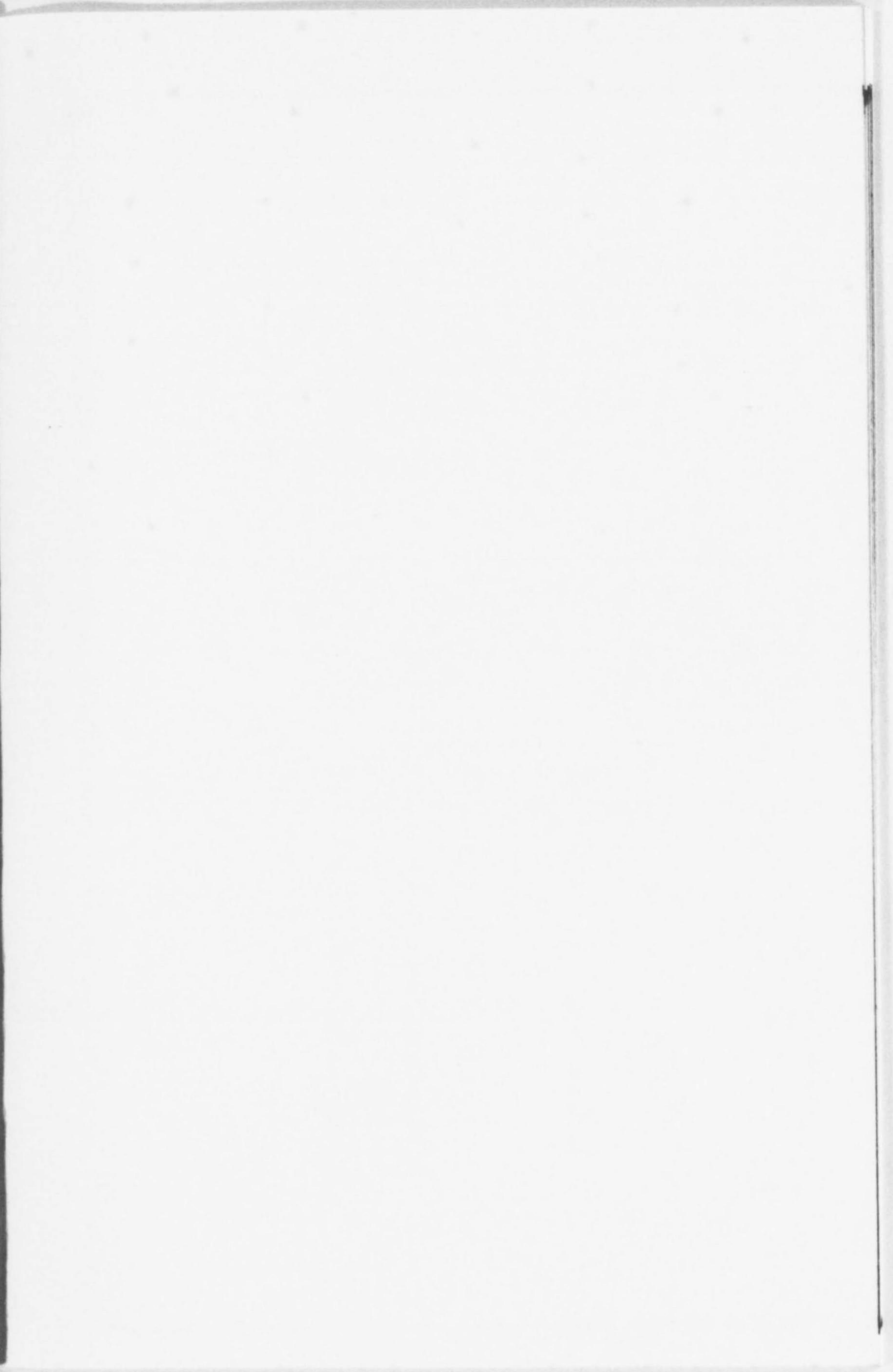
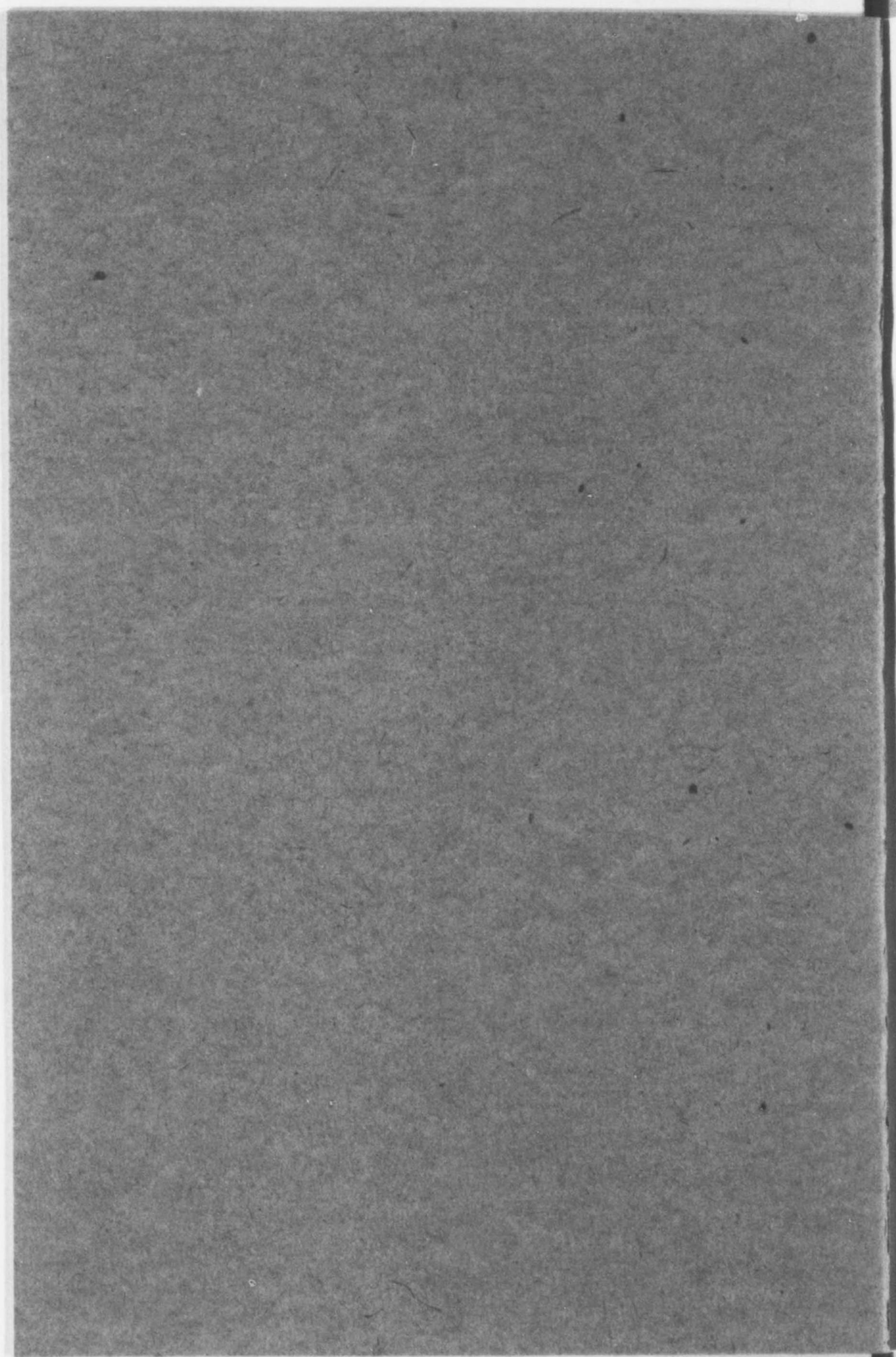
- 一 同七年一月八日裁判所ヲ長岑縣及ニ函館ノ西
聚ニ置カル
- 一 同年同月九日警保寮ヲ内務省ニ屬セラレ
- 一 同年同月廿七日金九十万圓ヲ以テ一歳ノ費額ト
定メラレ
- 一 同年二月二日檢事職制章程及ニ司法警察假規
則ヲ改定セラレ
- 一 同年同月廿六日府縣裁判所檢事出張所ヲ廢シ
檢察事務ヲ地方官ヘ付ス
- 一 同年四月五日裁判所ヲ佐賀縣ニ置カル

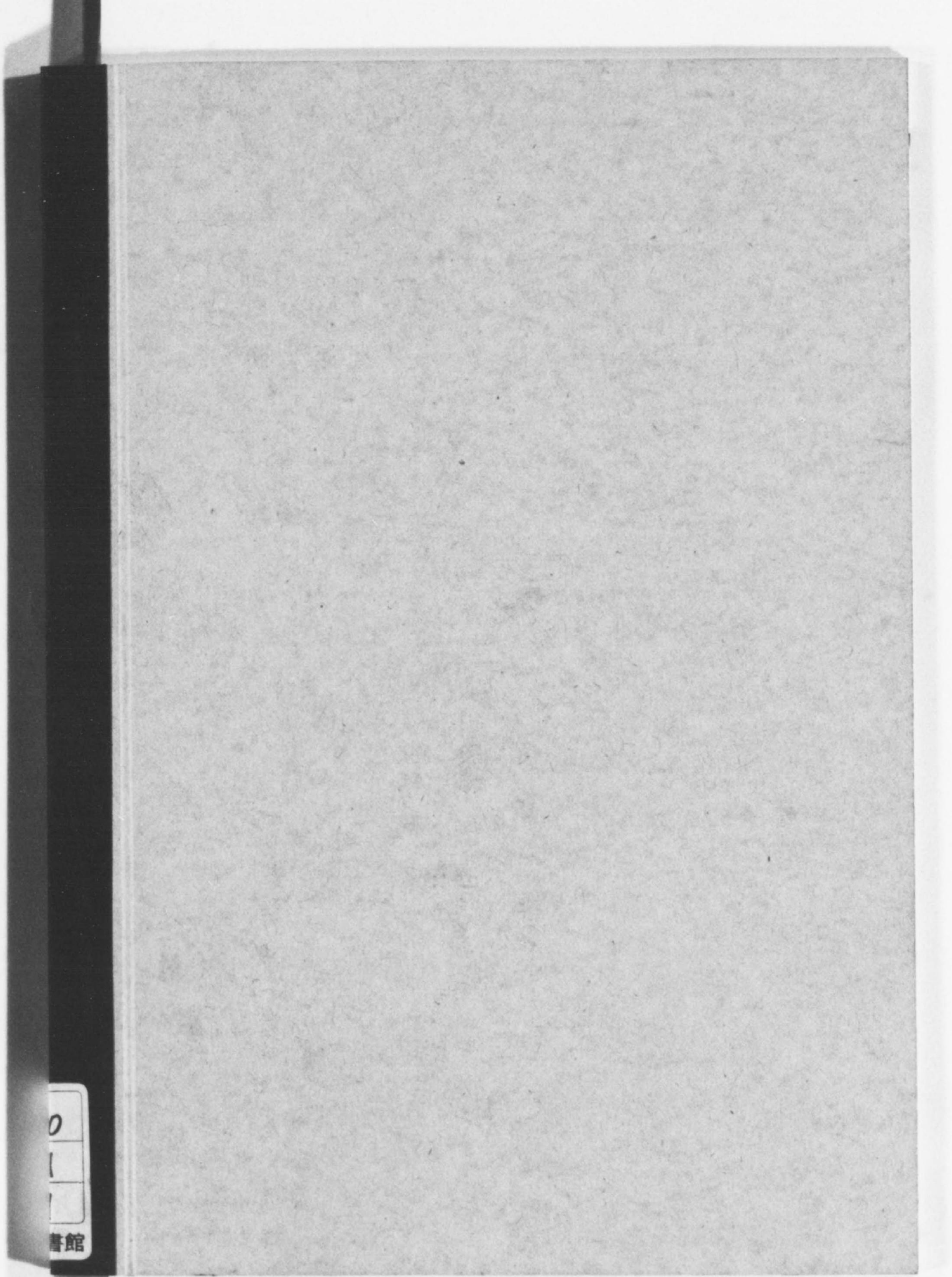
- 一 同年十月三日司法警察事務ヲ地方官ヘ委任
ス
 - 一 同年十二月廿二日裁判所ヲ新潟縣ニ置カル
 - 一 同八年四月十四日大審院ヲ置カル
 - 一 同年五月四日明法寮廢セラレ
 - 一 同年同月十日大審院諸裁判所及司法省并檢事
職制章程ヲ定メラレ
 - 一 同年同月同日司法裁判所臨時裁判所ヲ止メ更
ニ東京大坂長崎福島四上等裁判所ヲ置カル
- 八月十二日福島上等裁判所ヲ宮城
ニ移シ宮城上等裁判所ト稱ス

一 同年同月廿三日新治裁判所ヲ廢ヒラル
一 同年同月廿四日四上等裁判所ノ公轄ヲ定メラル
一 同年同月同日民事控訴畧則ヲ廢シ控訴上告
手續ヲ定メラル

明治四年以後經費

明治四年七月ヨリ十二月マテ	金七万五千五百六十四圓六錢六厘 洋銀二万六千四百六十兩
同五年中	金三万五千七百十五圓三十錢二厘 洋銀五千二百五十兩
同六年中	金七万五千九百九十圓六錢二厘
同七年中	金七万四千八百七十九圓三錢九厘 洋銀一万五千三百二十一兩五十五セント
同八年一月ヨリ六月マテ	金六十二万九千三百四十一圓三十三錢六厘 洋銀七千四百五十兩





0
|
|
|
書館